

全身の動脈硬化を引き起こす Coronary risk factor の管理が重要である。  
今まで、PCI VS CABG の長期予後成績を比較した study でも PCI の予後は非常に良い。特に日本では成績がよく、死亡原因としては心原性よりも非心原性の方が多いという結果であった。それは Coronary risk factor のコントロールが良好であるからと考えられている。

しかし、食生活の欧米化などに伴って日本人の Coronary risk factor の増加は加速しており、日本における PCI の予後についても悪化することが懸念される。

治療として

- A アスピリン
- B ブロッカー
- C シガレット / コレステロールのコントロール
- D 糖尿病(Diabetes)のコントロール
- E 教育と運動(Education and Exercise)

A,B

その有用性が多数の mega study にて証明されている。

C

コレステロールの低下は心血管事故だけではなく、総死亡も減少させる。  
LDL の低下が非常に注目され、REVERSAL といった study にてプラークの退縮がその本態ではないかといわれている。冠疾患有病者は LDL を 70mg/dl または治療開始前の LDL 値の 50%低下させることが目標である。

D

糖尿病の存在はとにかく生存率が悪い。発症してからの積極的な治療は Stroke や MI といった major event の予後を改善しないとされる。したがってとにかく糖尿病を「発症させない」ことが大事である。それに寄与するものとして ACE/ARB の投与がよいことも報告されている。また空腹時血糖のみでは評価できず、耐糖能異常の症例の予後が非常に悪いとされる。